

はくび会ソフトボール打ち上げ

ハンカチ王子こと斉藤祐樹や「剣の舞」で有名な作曲家ハチャトゥリアンが生まれた6月6日(金)に、はくび会ソフトボール大会打ち上げが行われました。

下準備では、昨年同様、タイムセール狙いで買出しに行ったのですが、店員が恐ろしいほど割引商品を出し渋っていたため、食料の調達に苦戦しました。何とか調達・・・がしかし、買った商品がすべて揚げ物というかなりおっさんチョイスになってしまいました。

一方その頃、研究室では、酒井さんによって収穫されたレタスの洗浄活動の傍ら、畜産資源研究室アート部門主任中川さんによるおにぎりに巻く海苔アートの創作活動が行われていました。酒井さん、中川さんお疲れ様でした。どちらも、美味しくいただきました。そんなこんなで、慌しく準備しましたが、何とか間に合い会長の今井先生の音頭を皮切りにソフトボール大会の打ち上げが始まりました。



収穫してきたレタスと「はくび」おむすび



功労賞に輝いた祝前先生へ金賞ワインが贈呈されました！

今大会の功労賞は多忙な中、試合に参加してくださった祝前先生でした。先生には某国のワインコンクールで金賞を受賞したという良質ワインが進呈されました。来年は、畜産広岡先生の参加によるMVP受賞を畜産資源研究室一同、熱望しております。

いわいさき

また優勝チームである畜産資源学研究室には、『ちょっといい日を、もうちょっといい日にする』ビール1箱が贈呈されました。そして2位以下のチームには、『〇〇冷やして待ってるから〜』でお馴染みの有名発泡酒が準備されていました。やはり、優勝すればそれだけいい商品が待っているということです



♪優勝チーム『畜産資源』♪

ね。こうして、優勝商品を手に祝杯をあげる畜産資源一同ですが、「あれ？K先生、畜産でしたっけ？どうしてビール飲んでるんですか？あれ？知らない間に箱にあったビールが空に？あれ？編集長はチューハイなのに、周りの違う研究室の人はビールですよ？」という某先生によるビール略奪疑惑や『酒井のおっちゃん、たこ焼き

一個オマケして～な～』と言ってしまいそうなほど、たこ焼き作りの

似合う酒井さん、何故か隅っこに集まって談合をする各研究室Dメンバー・・・、他にも色々面白い出来事が盛りだくさんでした。また、他研究室との交流も深めつつあつという間にお酒&食事は人のおなかの中に納まっていきました。来年も打ち上げを含めソフトボール大会を成功させたいと思います。

(文責:Kim)



東大寺

目次:

～広岡先生の随筆⑩～
初学者の心得 2

平成20年度
第2回学生実験 3

新メンバー紹介⑤
イクバルさん 3

山羊好きさんたちの
熱い夜 3

沖縄ヒージャーの旅 4

今月の畑 4

お知らせ 5

関西では例年より早く梅雨入り。今年流行のおしゃれな長靴でも買おうかな、と思っていましたが、夜のうちに雨が降って日中は晴れ間も多いので助かっています。今のところ水不足の心配も無いようです。それでもやっぱり山羊達には嫌な季節。体調が悪くなったり、いつもより元気が無かったりするようにです。研究もなかなか捗らず、目に見える成果が出せないのが苦しいところですが、『いつでも上手く事は運ばないものさ』という某先輩の言葉を支えに踏ん張っています。今月も頑張ろう！



好評連載 広岡先生の随筆

⑫ 初学者の心得



昔、笛の名人が弟子を連れて散歩をしていたところ、どこからともなく笛の音が聞こえてきた。それを聞いた名人が弟子に「あの笛の音を止めて見せようか」と言う。弟子は意味が分からず戸惑っていると、名人が笛を取りだし、笛を吹いたところ、その笛の音がぴたりと止ってしまう。また、後日、異なる場所を名人と弟子が散歩していたところ、同じように笛の音が聞こえてきた。そこで弟子が名人に、「先日と同じようにあの笛の音を止めてみてはどうでしょうか」と尋ねたところ、名人は「あの笛は止められない」と答える。

この物語のオチは分かっただろうか。最初に聞こえてきた笛の音の主は、ある程度の笛の技能を持っており、名人の笛の音が聞こえてきた時に、その笛の音のすばらしさを理解でき、そのような技量を持つ人の前で自分が未熟な笛を吹いていることを恥ずかしいと思って、笛の吹くのを止めてしまったのである。一方、後日の笛の音の主は、おそらく初心者なのであろう、笛の音からその拙い技能を知った名人は、自分の笛の技量が相手に伝わらないと思い、「止められない」と答えたのである。

この物語は、中学か高校の時に古文の問題集で読んだものだと思うが、その後、本屋によるたびにいろいろと探したが、出典が分からない。したがって、ここで述べた物語は、私の記憶の中の話なので、どの程度原典と一致しているか定かではないが、とにかくこの物語を最初に読んだ時に、私は大きな感銘を受け、その後の人生の教訓となった。

芸の道も学問の道も多く多くの点で共通している。初学者の中にはちょっとうまくゆくと、とかく自分の能力を過信してしまい、うぬぼれてしまうものがある。その結果、学問の深さを十分に知る前に、表面的なものだけを見て、自分が完全に理解できたものと勘違いし、他人の意見を聞かなくなる。芸の道も学問の道もその時に考えているよりもはるかに広く深いものである。したがって、学ぶ姿勢がなくなったところで、学ぶ機会を失い、結果的に学問の道から取り残されてしまうことになる。つまり、ちょっと学問を知ったところで慢心してしまう学生は、師に尊敬の念を持たなくなり、結果その学生は、十分な指導を受けられなくなる。

私は研究室を巣立ってゆく学生に、いつも、新しい職場ではしばらく周りを見渡し、ある程度物事が理解できてから自分の思うように行動せよと戒めることにしている。新しい仕事や研究の内容を本質的な面まで理解でき、自分の物にするためには、職種によってさまざまであろうが、少なくとも2、3年はかかるものである。せめてその期間が終わるまでは、指導者や先輩の意見には耳を傾けるように言うようにしている。

若いと言うことは特権であり、物おじしないということは、一般的にはよいことである。しかし、人の意見を聞くことはそれにもまして重要なことである。したがって、私は新しく研究室に入ってきた学生には、意見を述べることは大歓迎であるが、修士課程が終わるまでは最終的にはわれわれの意見を聞くようにと指導している。このことは、うまくゆくための経験上の知恵である。他方、博士過程の学生には、少なくとも自分の取り組んでいるテーマについては私を超えてくれることを期待している。

この修士課程と博士課程の学生に対する対応の仕方が、最初の笛の名人の物語から学んだ教訓に基づく知恵である。つまり、修士課程の学生は基本的に初学者であり、自分の取り組んでいるテーマであっても、その内容・本質を完全に理解できるとは到底思えないので、謙虚に人の意見を聞くようにと言うメッセージである。それに対して、博士課程の学生は、自分の研究の内容と本質を理解しているものと期待できるので、ある程度までは自分の判断で行動してほしいと言うメッセージである。しかし、博士論文を書き上げるまでは一人前でないと言うことも同時に忘れてはならない。

学問は広く深いもので、研究はやりがいのある仕事である。しかし、ちょっとした成功によるうぬぼれは生意気に変わりやすく、時には大きな失敗を招き、若い研究者の研究生命が絶たれることさえある。私はこれまでに、多くの若い学生、研究者が、自分のうぬぼれと未熟さに気づかず、取り返しのつかないことをしてしまって、結局、研究者の道を断念し、大学から去って行ったのを見てきた。これはある意味で悲劇である。

冒頭の笛の名人の物語で分かるように、芸の道にしる、学問の道にしる、初学者がそれらの本質を見抜けるようになるには、それなりの時間と努力が不可欠である。そのことに気づかずに、謙虚さを失い、他人の教えに耳を傾けることを止めたときに進歩が止まってしまうことになる。学生諸君は、「名人の笛の音」を聞き取れるようになるよう常に地道な努力を怠ってはいけない。

私が龍谷大学に就職が決まり、京都大学を後にする時、当時のわれわれの研究室の教授であった宮崎昭先生から、「実るほど頭をたれる稲穂かな」という送る言葉をいただいた。この言葉は、今も私の座右の銘になっている。

広岡博之

平成20年度 第2回学生実験

第2回学生実験は、6月11、12日に行われました。梅雨入り後ということもあり、雨が降るのではないかと思われましたが、てるてる坊主を(心の中で)吊るしたおかげで、両日とも雨に降られることなく実験を終えることができました。雨だと移動が大変なので本当によかったです。

実験はいつもどおり、①ルーメン液の性情およびプロトゾアの観察、②*in vitro*消化試験、③山羊の放牧試験、④アンケートが主な内容でした。私が担当していた①の流れはこんな感じです↓↓↓。

観察に使うルーメン液は実験の前に採取し、ガーゼで濾してろ液をつくります。それを*in vitro*試験用と観察用に分け、観察まで38℃で温浴させておきます。実験が始まったら、まずルーメン液の色やとろみ(?)、においなどを体感してもらいます。そして、顕微鏡でプロトゾアが動き回っているのを観察してもらいます。その後は、薬品を混ぜて



プロトゾアの動きを止め、スケッチとプロトゾアの個数を計測してもらいます。カチカチカチ……。

やるのがたくさんあるのと、観察用の器具が人数分ないので、班内での役割分担などに少し混乱が起きるのが常なのですが、今回の学生さんは皆さんテキパキと観察を進めて、ほぼ時間通りに実験を終えることができました。パチパチ(←拍手)。

その他の実験も順調に進んで、学生さんの山羊(を含む反芻家畜)に対する知識も深まったことでしょう。2日目のアンケートでは、山羊チーズ2種類はおかわり希望者が何人か見受けられ、結構評判がいいのでは?という感じでした。



コラム: 一言一考 ④

「幸せ」

足るを知ること。幸せになるにはどうしたらよいかについて思いめぐらした結論が「己が幸せだと思い込む」ことであった。この方法が、最も安上がりであるし、幸せというものが主観の産物であるために、適当であると思う。さらに、足るを知れば最高である。朝起きて幸せ、ご飯を食べて幸せ。多くの足るに気付けばその人は幸せである。

(明太子)

お誕生日会

6月のお誕生日会が25日に開かれました♪お誕生日さん、児嶋さんのリクエスト「苺のショートケーキ」と、フルーツゼリーを用意しました☆数字の2と4をモチーフにしたキャンドルを、予想通り42と挿したがる人たち・・・は、さておき、金島さんのイントロ録音テープも無事に流れ、楽しい会となりました☆



新メンバー紹介～第5弾～

このコーナーでは、今年度の畜産資源新メンバーをご紹介します。第5弾は、留学生のイクバルさんです。ソフトボール大会では、祖国で培った「石を投げて狙ったマンゴーを落とす」コントロールの良さでピッチャーとして大活躍してくれました。

- ①Mohamad Iqbal Makmur
- ②Iqbal(イクバル)
- ③1972年11月13日
- ④O型

- ⑤インドネシア
- ⑥Samratulangi University
- ⑦Sport
- ⑧Make a friendship
- ⑨War & Fighting
- ⑩Under confidence
- ⑪Nice work and keep

going.

- ①名前②なんて呼ばれたい?③誕生日④血液型⑤出身地⑥出身大学⑦特技⑧好きなもの⑨嫌いなもの⑩長所⑪短所⑫ひとこと



ヤギ好きさんたちの熱い夜

6月最後の日曜日、全国山羊サミットin京都第3回実行委員会が、京都大学附属牧場において全国山羊ネットワーク今井代表を迎えて開催された。実行委員長の北川先生を中心に集まったメンバーは、畜産資源から4名、畜資の卒業生で現亀岡市役所員の上原さん、「やぎのたまご」がブレイク中の高橋さん

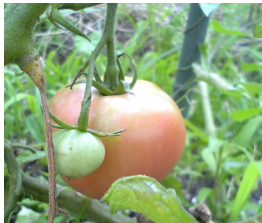
など京都の山羊を支援する総勢10名。やぎサミット開催に向けての熱い討議は予定時刻を約1時間延長して行われた(全国山羊サミットについては、GOAT BULLETIN号外をご参照下さい)。参加者の一様に熱い山羊への思いは、日本の山羊産業の明るい将来を髣髴とさせる…!



やぎのたまご(やぎチーズ入り)
6個入り1,000円

今月の畑

作付けから約2ヶ月。畑から立派なトマトや大根、甘いとうもろこしが収穫できました。



6月25日(水)の夕方、「畑に集合！」という掛け声がかかり、とりあえずビニール袋をもって畑に向かいました。入梅前の水遣りと、雑草取り、間引き作業の成果で大収穫！トマトや大根のほかに、大葉、チシャ、なす、きゅうり、インゲンなど新鮮無農薬野菜が収穫できました。枝豆ももう少し、スイカの成長が楽しみです！



沖縄で入手した「ヒージャーキー」。長年、山羊肉ジャーキーが出ればきつと売れるのに、と考えていましたが、やっぱりありました。オキハムという大手が販売していました(インターネットからも買えます。ひとつ367円)。<http://www.okiham.co.jp/> 畜産資源でもこのジャーキーは好評でした！

沖縄ヒージャー①の旅

6月16日から3泊4日の日程で、「めんそ〜れ^②」沖縄へ行ってきました！伊丹空港から約2時間のフライトを終え那覇空港へ降り立った瞬間、あまりの暑さにフィリピンに着いてしまったのかと思うようでした。空を見上げると太陽が真上から照りつけ、久しぶりに見る夏雲でした。肌はじりじりと音を立てて焦げていく感じがしました(SPF50の日焼け止めも歯が立たず…)。そのまま海へ直行したい気持ちを何とか抑えて…仕事場へ向かうのでした。(ToT)/~~~~

さて、今回沖縄を訪問したのは、琉球大学の産学連携プロジェクトのお手伝い。山羊肉製品に対する消費者の意識調査でした。って、実際にやったのは、新商品チーズの試食販売&アンケート。若かりし頃、そんなアルバイトで結構稼いだなあ…と懐かしさを覚えながら『いらっやませ〜(^_^;)』。今回は、沖縄三越での沖縄物産展ということで、休憩時間には、沖縄の有名どころの品々をいただいてきました。沖縄(ソーキ)そばの老舗『きしもと食堂』(1日200食限定)のきしもとそばは、鯉だしの上品な味。やわらかく煮込んだラフテー^③もみんなで美味しくいただきました。養鶏場のオーナーが作っているという新鮮卵のさーたーあんだぎー^④も3回くらい試食して(*^_^*)。山羊肉のジェラートもありましたが、こちらも大好評のようでした。

2日目は、牧志公設市場を訪れました。公設市場には野菜部門、魚部門、肉部門があり、どの店にも本州ではなかなか見られない沖縄特産物が所狭しと並んでいました。魚屋さんには、色とりどりの熱帯魚、椰子の木を登るヤシガニ、サザエの化け物のような巻貝(ヤコウガイ)、丸裸にされたハリセンボン、おなじみ海ブドウに新鮮モズク…どれも2階にある食堂で調理をしてくれて、食べることができるそうです。お肉のコーナーには、今話題のアゲ豚、豚の生足にサングラスをかけた豚の頭…(*.*)わお！発見しました山羊肉の看板。一緒に臭み消しのよもぎの葉っぱも売っています。市場でひとしきり大騒ぎした

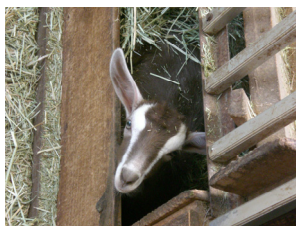


山羊肉ニューだらけ…

臭みの無い山羊刺し

山羊肉ソーセージ

後は、2階の食堂へ。「つばめ」というお店の名物料理、山羊肉三味の夕食を頂きました。山羊刺し(刺身)、山羊肉ソーセージ(1本700円)、山羊肉餃子(800円)…う、山羊に囲まれている気分が…ゆし豆腐がとても美味しかった〜。



3日目には、山羊を飼育して山羊肉や乳製品を製造・販売している『はごろも牧場』さんく <http://www.hagoromo-bokujo.co.jp/> を訪問しました。よく管理された畜舎にはにおいもなく、ザーネン種のほかにアングロヌビアンやトッゲンブルグもいて、子供たちは可愛さを振りまいていました。雄もたくさんいましたが、繁殖季節ではないのでマイルドな香りでしたよ。

お土産には、もちろん山羊のチーズと泡盛☆公設市場に売っていた山羊肉ソーセージもぜひ購入したいところでしたが、何故か一歩踏み切ることができませんでした。次の機会にとっておきましょう。そうそう、お土産といえば那覇空港には免税店があって、沖縄から県外へ出発する航空券をもっている人は、海外と同じように免税ショッピングができます。DFS(デューティーフリーショップ)は、那覇空港のほかに市内のおもろ町というところにも大きな店舗を構えています。まるで海外のようですね…

今回の旅は山羊の旅で、山羊料理だけでなく山羊仲間の皆さんとの山羊話が満喫してきました。こればかりは話がつきませんね〜。いやいや、沖縄は山羊の他にも見所やおいしいものがたくさんあります。豆腐料理や泡盛も欠かせないし、次回はぜひ公設市場の2階で魚介類を食べつくしたいなと思いました。海へも離島へも行ってみたいです〜沖縄また行きたいなあ…！

①沖縄弁解説①ヒージャー:ヤギ、②めんそ〜れ:ようこそ、③豚の三枚肉の角煮④揚げドーナツのようなお菓子

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



畜産資源学研究室

GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミの予定は、

7月 4日(金) 竹内 (中間発表) 10:40~ E503

7月 9日(水) 椎野・イクバル (文献紹介) 14:45~ W210

7月 11日(金) 中川・柳 (研究計画) 10:40~ E503

7月 16日(水) 塚原・西尾 (文献紹介) 14:45~ W210

となっています。但し、変更等あればまたご連絡します。

ゼミ係

今月のお誕生日会

7月のお誕生日さんは大石先生(13日)とLeninさん(17日)です。大石先生からは「ガトーショコラ」、Leninさんからは「レアチーズケーキ」というお題をいただいています。日程は追って連絡致します。

イベント係

今月のおみや

付属牧場の北川先生から丹波の「やぎのたまご」が、沖縄土産はさーたーあんだぎーが届きました。盛岡出張だった広岡先生と西尾君からは、盛岡の地酒と南部せんべいを頂きました。高槻牧場へダイショウ作付けに行かれた熊谷先生からは、中村軒の麦代餅と水無月を頂きました。ご馳走様でした☆

研究室の動き

7月5日に畜産システム研究会が開催されます。この研究会は、畜産資源のハンドリングになるので、お手伝いをよろしくお願いいたします。メンバーの動きとしては、熊谷先生と椎野君が中旬からネパールへ実験に出掛ける予定です。

2008年7月の飼育当番

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|------|------|----|--------------------------|----|-----|----------------|
| 6/29 | 6/30 | 1 | 2 Lenin・竹内 体重測定 | 3 | 4 | 5 畜産システム研究会 |
| 6 | 7 | 8 | 9 田端・柳 体重測定・予防注射 | 10 | 11 | 12 |
| 13 | 14 | 15 | 16 西尾・兒嶋・木村 体重測定 | 17 | 18 | 19 |
| 20 | 21 | 22 | 23 塚原・酒井 体重測定・予防注射 | 24 | 25 | 26 |
| 27 | 28 | 29 | 30 熊谷先生・Iqbal 体重測定 | 31 | 8/1 | 2 |

編集後記 小学校の飼育動物として、今、山羊が注目を浴びているらしい。先生方は子ヤギを導入して子供たちに餌やりや管理をさせることで、命と触れ合うことを学ばせるのだと。しかし、全国山羊ネットワークの今井代表は、そんな子供たちにぜひ「繁殖」の場面と山羊が肉になるところを見せたいとおっしゃっていた。子供が生まれる瞬間や、命を頂くことを体感してこそ得るものが大きいと。深い。